

■生徒の学力の状況

○昨年度の「全国学力・学習状況調査」及び「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、観点別の課題を分析すると、国語では、9年生は「書く」に課題がある。数学では、9年生は「技能」に課題がある。英語では、9年生は「話す・聞く」に課題がある。
○昨年度のRSTの結果を区平均と比べると、8学年は全体的に区平均と同じ。ただし同義文判定（2つの文章が同じ意味かどうかを判定する力）の項目が少し低い。9学年は全体的に区平均より少し高い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○振り返りの時間を確保する。
○「話す・聞く・書く・読む」の4技能を高めるための「志五中スタイル」を定着させること。
志五中スタイル
1 根拠+《接続詞》+自分の考え
2 キーワードを意識
○RST、hyper-QUを分析し有効に活用すること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○課題解決学習や学習成果の発表の場を設け、根拠をもとに自分の考えを述べることのできる生徒の育成に向けて四技能を中心に言語活動の充実を図る。
○「自力解決」「集団解決」「発表」「振り返り」「まとめ」の流れによる授業スタイルを取り入れ生徒が主体的に学ぶ授業への改善をさらに進める。
○指導計画や週案に基づき指導の重点を明確にし、教材の工夫、指導法や評価法の工夫改善をすることで、学力の向上を図る。
○生徒の授業の振り返り評価並びに学校評価の結果を基に、より充実した授業を提供できるよう日頃からの授業改善に努める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○板橋区授業スタンダード・志五中スタイルの徹底および生徒が取り組みやすい課題を設定し、図書室やICT機器を活用して情報収集を行い、生徒が根拠をもとに自分の考えを説明するような授業を展開する。	○授業のなかに「自分の考えをもつ場面」と「話し合いや発表の場面」を設定し、他人の考えを聴いて自分の考えと比較したり組み合わせたり、質問をしたりしてよりよい考えを創り出す場面を設定し、深い学びにつながるようにする。	○本時の目標を提示し、目標に対しての振り返りを、ノートなどを用いて生徒に行わせ、その結果をもとに授業改善を図る。

■いたばし学び支援プラン2021の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○舟渡小学校の「舟っ子ミニマム」を中学校の教員で確認し、授業規律についての円滑な接続ができるようにする ○先生の説明を私語をせずに聞き、友だちの考えを注意深く聴き、分からないところなどを友だちに訊く。 ○志五中スタイル ○学びの4つのき 聞く・聴く・訊く・キーワード	○色覚サポートチョークを使ったり、授業の流れを示したりすることで、学習環境をユニバーサルデザインにするよう努める。 ○学力向上専門員や学習支援ボランティアを活用し、授業をサポートし、きめの細かい指導を行う。	○校内で研究授業を積極的に行い、教同士で見合うことで、授業力向上に努める。 ○教職員の課題に応じ、板橋区教育支援センター主催の研修に全教員が1回以上参加するとともに、小中一貫による学力の向上に関する校内研修会を計画的に行い、充実させる。